

## 短大の現在と将来・カリキュラム改革

### 改革への全学的取り組み

宗和 太郎

宮崎女子短期大学・初等教育科  
そうわ・たろう

専攻は教育学  
一九五四年生まれ

本学は創立三十年足らず、保育・国文・初等教育・音楽・英語の五学科からなり、一学年の学生数六百程度短大である。典型的な地方型短大であり、地元出身者が九割強を占め、卒業生の就職先もほとんど地元である。従来、改革ということについてはいたって低調であったが、設置基準の大綱化を受け、一昨年より自己評価やカリキュラム改革の模索が始まった。

#### 従来は

#### 消極的

#### 受動的受講

時間割は一般教育、専門教育ともクラス単位で固定され、科目の選択の余地はほとんどなく、学生たちは履修する・しないの選択しかできなかった。学生たちの大半は熱心に学習しているとはいえず、モラトリアムの消費と就職に必要な資格免許等取得のために、カリキュラムにつきあっているようだった。

#### 改革の方法

学長の諮問機関としてカリキュラム検討委員会が設置され、四人の若手教員がその委員になり、カリキュラム改革の原案を作成することになった。

その場合のカリキュラムのとらえ方としては、「授業科目の設定と配列」としてではなく、「学生が短大に通うことよって経験する学習の総体」と広げて考えるべきである。個々の教員の論理中心で「教えたはず」「学んでいるはず」の無理、無駄、ムラを排除するためには、それぞれの学生においてどのような学習が成り立つように教員・学校は配慮したか。そしてその結果がどうであったかを問題にする後者の定義によつて初めて、カリキュラム改革は単なるお化粧直しに終わらず、教育改革と結びつくことができる。

しかし、そのような教育改革と一体となったカリキュラム改革を目指すとなれば、全教員参加の議論と意志一致、共同努力への盛り上がりが必要でない。

しかし、本学において今まで自主的改革的積み重ねがなく、理事長・学長からの指示された「改革」には、教職員の多くが辟易している状態であった。下からの議論の積み重ねが不可欠であった。

カリキュラム改革の体制づくりのために、各学科の若手教員による「現行カリキュラムの問題点と改善への視点」をテーマとした全学シンポジウム、改革の基調提案としての二度にわた

る検討委員会の答申、答申についての学科・領域別ヒアリング、揭示板討論会、学科カリキュラムの改革に取り組む各学科プロジェクトチームの創設と委員会との連携、通信の発行などを積み重ねた。そこのカリキュラム検討委員会の標語が「全員参加・無理なく・できるところから一歩一歩」である。こうして全学的に改革に取り組み出してから三年が過ぎたが、上からのトップダウン式改革ではなく、下からのボトムアップ式改革を目指しているため、方向調整、合意に手間取ることが多く、標語の通り一歩一歩の改革を進めている。

### 状況認識の

### 共有を

### めざして

上からのトップダウン式改革では、理念・方向性が上から指示されて、その具体化方策を検討していけばよい。しかし下からの積み上げによるボトムアップ式改革においては、改革の方向をどのようにして調整するかが問題になる。理念等を抽象的に論じていても、個々の価値観の多様性があらわになるだけでまとまらなくなる危険がある。そこで一致できる方向性を導くには、短大がおかれている状況認識の共有を追求し、対応策を事実即して検討しあうという方法しかない。つまり、どのような入学者が予想され、卒業生は大方どのような進路を取るのか。その入学と卒業の間において、学生たちに一番重要で可能な教育課題は何か、という問題のたて方である。

本学の場合、入学者の出身及び卒業後の進路においていずれ

も非常に地域性がある。そのことから地域への貢献が教育課題として浮かび上がる。

また卒業後の進路を見ると、働き続ける者もいるが、多くは就職はしても何年か後、結婚で退職し、主婦になる。この本学への入学者層がこのライフスタイルとともに安定しているとすると、我々の教育を目前の就職にのみ焦点化していたのでは、展望不十分ということになる。

そもそも二年間という限定された期間でなし得ることは何か。不十分・未完成がついて回るとすれば、完成像の育成ではなく過程像の育成を目指すことが適当である。つまり、専門学校的な職業的専門能力でも、四大的学問的教養でもなく、職業、地域、家庭それぞれの場面でぶつかる諸問題に有効に対処しうる知性、つまり問題解決能力、自己教育能力を身に付けさせることである。

以上のような検討をもとに、二十一世紀に向けて「地域の新しい時代を切り開いていける女性の育成」をスローガンとし、次の三点をカリキュラム改革の目標として具体化を追求中である。

### 地域の知的活性化に貢献できる短大

### 学生の主体的な学習・研究姿勢の育成

### 身につく・ためになる・可能性を拓く多彩な教育内容